

## コンピュータラボにおける英語授業例 —— 速読力と読解力の養成 ——

北海学園大学 上 野 之 江

### 1. はじめに

1994年4月より1年生の英語クラスをコンピュータラボで教えている。MacReaderというリーディングソフトを使い、主に速読力と文章構成を理解する力をつけることを目的としたクラスである。いまや、世の中はインターネット全盛の時代となり、英語教育界も例外ではなくインターネットの大波が押し寄せている。電子メール交信やWorld Wide Web検索が英語の授業に多々取り入れられるようになって久しい。しかし、このインターネットの時代に益々要求されている速読力と読解力はインターネット上で練習しなくても養成できるのである。

コンピュータを利用した語学学習(CALL: Computer Assisted Language Learning)が利点とする; 1) 学習の個別化, 2) On-line Dictionaryの利用, 3) 電子テキストの利用, 4) 学生の動機付け, 5) 学習記録, 等を利用して効果的な授業を展開することができる。過去3年に渡るCALL授業の実践で、実際にこのような利点を観察又は体験することができた。このクラスの概要をCALL授業の一例として紹介したい。最初にコンピュータの利用環境, 授業計画で大枠を提示し、後半で学生の反応と指導上の留意点を考察する。

### 2. クラス概要

#### 2.1. 利用環境

(Hardware)

Machintosh Centris 660 AV .....48 台

(AppleShare Server で教師用端末とプリンタに接続している。)

Printer ..... 4 台

(Software)

MacReader, (John McVicker, Gessler Publishing Co., 1992)

(Printed Material)

*Developing Reading Strategies*, (S.K.Kitao & K.Kitao, Eichosha, 1994)

2.2. 学生数 (ひとクラス) .....大学一年生 48 名

#### 2.3. 授業計画

4-5月 マッキントッシュ操作マニュアルを英文で読む。操作方法に慣れる。MacReaderの操作方法を学ぶ。

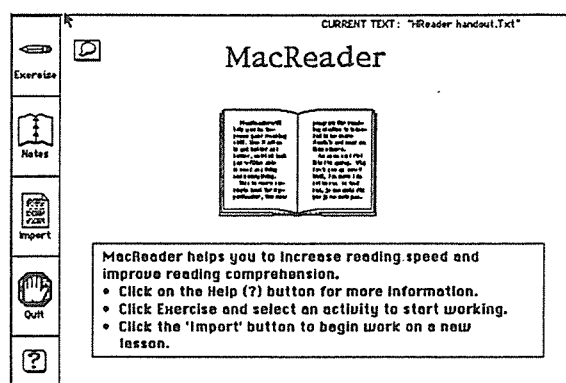
6-7月 Scanning, Skimming の練習

10-12月 Main idea, Supporting ideas, Transitions をつかむ。

1月 Outlining, Summarizing の練習

### 3. MacReader について

MacReader はオハイオ大学の John McVicker により開発されたソフトウェアである。ハイパーカードを利用して構成されている。オハイオ大学ではこのソフトを言語学部の英語集中コースで利用していた。MacReader の特徴は次の 4 点にある。1) 教師が選んだテキストを利用することができる。2) そのテキストを利用して学生は多彩な練習問題ができる。3) オンライン辞書 (On-line dictionary) が利用できる。4) 学習履歴がとれる。



MacReader はある意味では電子練習帳である。英語読解に関するパターン化した問題をコンピュータが自動的に作成してくれる。学生はその問題を毎週の授業でひとつひとつこなしていくのである。しかし、MacReader が既成の電子練習帳タイプのソフトウェアと異なる点は、練習問題のもとになるテキストを教師が学生のレベルに応じて自分で選択し利用できる点にある。既成のソフトウェアではテキストがすべて組み込まれ、利用する側の教師や学生がそれを改訂する余地はない。MacReader はそれとは反対に、利用者がテキストを text import するとソフトウェアがそのテキストをもとに自動的に練習問題を作成してくれるのである。テキストは教師が自由に選択することができる。現在はスキャナーと英語認識ソフトも精度を極め、これらを利用し印刷されているテキストもすぐ電子化できる。また、インターネットからのダウンロードも簡単になっている。このようにして教科書以外の豊富なテキストを利用し、学生は自分のペースで速読練習をすることができる。

ふたつの特徴としてあげられる多彩な練習問題について解説すると、MacReader には、以下の練習問題形式がある。

- a. Read: 読んで語彙をチェックする。
- b. Timed Reading: 自分のペースで読む。最後にコンピュータが 1 分間に何語読んだのか読むスピードを示してくれる。

例: Reading time: 226 words per minute

- c. Paced Reading: 最初に自分の読むスピードをセットする。コンピュータはそのスピードでテキストを提示していく。スピードは 1 分間に 120 語から 400 語の間で設定できる。
- d. Cloze: テキストの中の単語を数語間隔で自動的に隠していく。学生は ( ) 内の語を推測して入れる。隠す語の間隔は例えば 3 語おき, 6 語おきに隠す等, 教師が自由に指定できる。また, ヒントも指定できる。ヒントとしては語数, 最初の文字, 意味を示すことができる。
- e. Sentence Jumble: 段落の中の文の順番を入れ換える。学生は正しい順に並べ換える。
- f. Paragraph Jumble: 段落の順序を入れ換える。学生は内容を把握し正しい順に並べ換える。

第3の特徴であるオンライン辞書は MacReader 中の普通に読む練習 (a. Read) の時に使える機能である。MacReader は 4,000 語程の辞書を持っている。その中にある語彙は General Service List (West, Michael, *A General Service List of English Words*, Longman, London, 1953), the University Word List (Nation, I.S.P., *Teaching and Learning Vocabulary*, Newbury House, New York, 1990)等の中から使用頻度の高い語彙として抽出されたものである。学生は意味を確認したい語の上でマウスを一度クリックすると、コンピュータがその語の意味と例文を辞書の中から探しだし画面に示してくれる。例えば、

“strategists”— means: one who plans a way to do something

Example: “The president’s strategists advised him not to give a speech on the topic.”

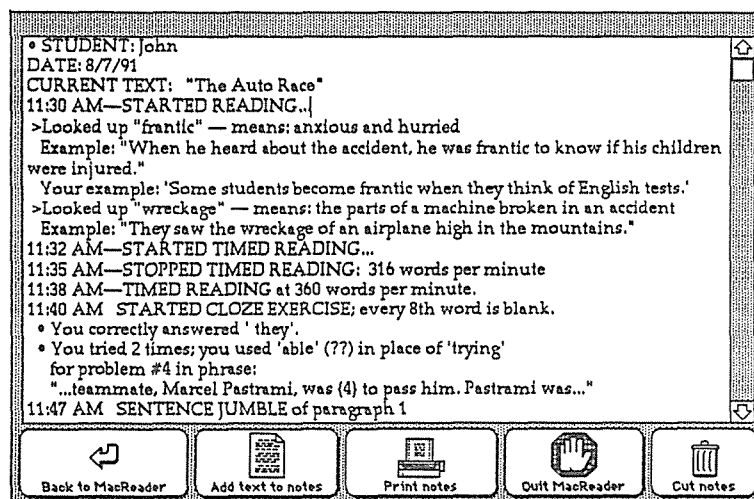
というように学生は英語で意味と例文の確認ができる。また、学生は自分の覚えのためにこの語を、コンピュータ上にある自分のノートブックに追加しておくこともできる。その際、自分の母国語での翻訳や、自分で作った例文も付記することができる。画面からは次のような指示が出てくる。

To remember “strategists”, type ONE:

- a. YOUR OWN definition
- b. YOUR OWN example sentence
- c. A TRANSLATION of “strategists” into your language.

もし、MacReader の辞書にない単語がテキストに出現した場合は、教師自身が予めその意味と例文を Glossary の中に登録しておくことができる。

第4の特徴として学習履歴が取れることが上げられる。上述のノートブックに学習した日時、参照した単語、練習問題での間違い、等が記載される。学生はこれをプリントアウトして持ち帰ることができる。



## 4. 授業例

上述のような学習環境で授業が毎週行われた。学生は MacReader でテキストを読み、ワークシートで scanning, skimming, outlining 等の練習を繰り返した。まず, timed reading でテキストを読み自分の速読スピードを計り記録した。次にワークシートで skimming, scanning 等その週の課題となっている練習をし, 内容をまとめ, True or False Questions に答える。その後, 教師と共にテキストをもう一度読み, ワークシートをチェックしていく。この時に, 説明が必要な文について教師が説明を加えたり, 学生が日本語になおしたりした。教師は毎週このワークシートを回収し評価の対象とした。授業中読むテキストは教科書以外に二つないし三つくらい用意し, 読解力のある学生はどんどん先に読み進むようにした。

## ワークシート例

E107/112B  
Yukie UENO  
Otaru Univ. of Commerce

## Reading Worsheet

Chapter/ Title	Reading rate words per minute	Comprehension Questions
Chap.8 (A)-(E)		Write the letter of the passage beside the type of supporting information that is given.  1. further explanation (    ) 2. definition (    ) 3. additional, more specific details(    ) 4. statistics (    ) 5. example (    )
Monuments in Whashington, D. C.		Write the main idea:  Write two examples that supports the main idea: 1)  2)
The Origins of English Words		Scan the passage and answer the following questions as quickly as possible. 1) What is one origin of mordern words?  2) When did the German tribes settle in England?  3) What are some examples of French words adopted by English that are related to government?  Comprehension questions:  1.        2.        3.        4.        5.  6.        7.        8.

## 5. 学生の反応

### 5.1. コンピュータ経験について

毎年4月の最初の授業で、コンピュータ経験について学生に質問をしている。まず最初に、「コンピュータにさわったことがあるか」という質問をした。その年により多少のばらつきはあるが、だいたい「ある」「ない」が半々になっている。

コンピュータにさわったことがありますか。

	ある	ない
.....		
1996 年	45	38
1997 年	16	26
.....		
合計	61 (48%)	64 (51%)

「コンピュータにさわったことがある」というのは、キーボードに数回触れた事があるという者からブラインドタッチができるというものまで様々である。96年度のクラスにはブラインドタッチができると自己申告した者が9名いた。この9名の中には高校の授業でタイプを習った者もいたが、大半は家にあるワープロ・パソコンに習熟し、それゆえにブラインドタッチはできると答えている。パソコン・ワープロの普及が急速に進んでいることが、学生の反応からもうかがえる。自宅又は自分でワープロ・パソコンを使う学生の数が増加している。早いものでは小学校の3年生の時にパソコン経験があったといっている。しかしその一方で、全くさわったこともないという集団もある割合で依然存在している。しかし、「コンピュータを使用することに、不安がありますか。」と問うと、以下のような反応が返ってきた。不安を持っているものは年々少なくなっている。

コンピュータを使用することに、不安がありますか。

	たいへんある	少しある	あまりない	ない
.....				
1996	14 (17%)	21 (26%)	27 (34%)	18 (23%)
.....				

### 5.2. コンピュータを使った英語の授業について

コンピュータを使ったリーディングの授業はいかがでしたか。感想を一つ選んで下さい。

	1995-1	1995-2	合計
たいへんよかった	17	6	43 (55%)
よかった	13	13	26 (34%)
まあまあ	2	4	6 (8%)

あまりよくなかった	1	0	1 ( 1%)
よくなかった	1	1	2 ( 3%)

1995 年度クラスの学期末の感想である。この質問の次に授業についての意見、感想を自由に書いてもらった。無回答を除いた回答を授業内容に肯定的なものと、否定的なものに分けると

授業内容に肯定的 …………… 49

授業内容に否定的 …………… 9

となった。肯定的意見の大半は「コンピュータを使ったからよかった、おもしろかった」「コンピュータにさわることができてうれしい」というものであった。この集団は英語の授業でなくともコンピュータを使った授業であれば何の授業でも感動しているに違いない。「コンピュータで授業をしていると、『ああ、大学なんだなあ』なんて感動しました。」というのもあった。コンピュータを起因として学習の動機付けがなされた者が多かった。英語の授業という本来の目的に関係のある回答は残念ながら少なかった。

少ないが英語学習に関するコメントを見ると、MacReader の特徴である Timed Reading について言及していた。「自分の読む早さがわかってよい」とコメントした者が2名いた。また、「教科書で読むよりもコンピュータの画面で読むほうがあきないで読めた」という意見もあった。教師としては後者のような感想が多く出る事を望むものである。

否定的意見の大半は機器操作に関するものとモニター画面のテキストを読んで解答する試験についてであった。前者については「機械音痴なので取扱いに苦労した。」「コンピュータが、たまに動かなくなるのをなんとかしてほしい。」「操作方法をもっと簡単にしてほしい。」等であった。また、「目が痛くなった。」というコメントもあった。今後検討しなくてはならない課題である。

モニターを使ったテストは不評であった。「コンピュータを使ったテストは絶対にやりにくい。特に Comprehension Questions に答える時に、いちいちテキストをいったりきたりしなくてわならず、わずらわしい。」これはもっともな意見で翌年よりこの形式のテストはやめた。テストにコンピュータを利用しようと思ったのは速読のクラスなのでテストの時はテキストを印刷した紙をたくさん必要とする。これは一度使えばもう用なしのものである。地球環境を考え電子化してみたが、結局のところ失敗であった。モニター画面上で読み取れるテキストの行数は以外と少ない。これをスクロールしながら読むのはたいへん煩わしいというのはもっともである。一目で全テキストが見渡せる印刷の方がリーディングのテストとしては勝っていた。

## 6. 指導上の留意点

### 6.1. 学生の授業態度

これは筆者の主観的印象であるが、同じ教材を使い同じ言語活動をして印刷教材を利用するよりは、コンピュータのモニター画面にあるテキストの方を学生は熱心に読んでいる。これは単に顔の向きが印刷教材の場合は下方に、モニターを見る場合はまっすぐ前向きになるからだけではない。学生はコンピュータと聞くと熱心になる。1997 年度はインターネット交信を試みたが、2 講目のせいもあるがこのクラスの出席率はすこぶるよい。反対に、欠席や遅刻は少数である。しかし、学生は顔はモニターを見ていても、眠っているかもしれない。目でテキストをいくら速

く読んでも理解していない場合もあるので時々チェックをいれなければならない。

## 6.2. テキストの電子化について

コピー同様、テキストを電子化するにあたって著作権を尊重しなければならない。今回は学生が教科書を購入していることもあり出版社の許可はすんなり降りた。教科書以外のテキストを利用する時は、授業終了後学生にそのテキストを印刷したものを配布する必要がある。それゆえテキストの電子化イコール紙の節約にはならなかった。授業で使ったテキストをフロッピーで渡すか、テープライブラリやホームページ等でいつでも閲覧できるようにするのも一案であろう。

## 6.3. 学生のコンピュータリタラシーについて

一年生クラスの約半分は全くの初心者と考えてよい。従って4月から5月にかけてはコンピュータの利用法をabcから教える事になる。英語の授業なので、英語のマニュアルを読みながら実際にマウスを動かしたり、クリックの練習をする。時々、情報科学のクラスを教えているような気持ちになり、ジレンマに陥る。語学の時間にクリックとかブラインドタッチの練習をどうしてしなくてはならないのか。しかし、これをしっかり身につけてもらわないとMacReaderが操作できない。

学生の中には「コンピュータ音痴」と自称するものが必ずいる。同じ動作をしてもその人だけがどういう訳かうまくいかない。英語の力はあるのに、コンピュータの操作法が不適切なために皆より遅れてしまうことがある。こういう場合に備えて教材を印刷したものも用意した方がよい。いざという時はコンピュータを捨て、紙と鉛筆で練習してもらう。

## 6.4. 学生用コンピュータの利用環境について

学生用コンピュータは起動時に余分なものは削除しいつも初期設定になるのが理想的である。そうでない時は一台一台すべてが異なる環境にあると考えた方がよい。教師の指示通り操作できない場合がある。

サーバーも過信してはならない。コンピュータによってはファイルの転送がすごく遅いものがある。調整不足のコンピュータにあたった学生は不運である。

円滑な授業のためには日頃からのメンテナンスが重要となる。コンピュータというハードウェアに対してメンテナンスを担当するヒューマンウェアの存在を忘れてはならない。

## 6.5. 指示について

コンピュータ操作の指示はいつも同じ指示を与えるのがよい。まず、基本形を習得してもらう。MacReaderを起動し、テキストインポートファイルを読み込み、練習問題に入る。この操作を全員がすんなりできるようになるまでに少なくとも3週間はかった。サーバーがない等例外の環境におかれている学生が毎回いるので、その調整がたいへんであった。

## 7. おわりに

コンピュータを利用した語学授業に対する学生の意欲は高いが、円滑な授業を行うためには教師の入念な準備、機器の整備が不可欠である。MacReaderのためのテキスト作り、辞書作りなど今後も励んでいきたい。